

電子図書館及びデジタルアーカイブに関連した中山正樹の著作と活動に関する報告

2025年3月19日
生成AIを利用して作成
中山 正樹 編集

I. はじめに

中山正樹氏は、日本の電子図書館及びデジタルアーカイブの発展において、顕著な貢献をしてきた人物として知られています。国立国会図書館(NDL)において電子情報部長を務めた経験を持ち¹、現在はJEPA(日本電子出版協会)のフェローであることから¹、その専門性と影響力の大きさが窺えます。本報告書は、提供された研究資料に基づき、中山氏が電子図書館及びデジタルアーカイブに関して著した著作、関連する著作、そして関わった活動をリストアップし、その要旨をまとめることを目的とします。中山氏のこれらの業績を明らかにすることは、日本のデジタル情報基盤の進化を理解する上で重要な意義を持つと考えられます。

II. 電子図書館に関する著作

- **A. 「未来の図書館の実現に向けて—「知の共有化」を目指した活動記録—**
この著作は、中山正樹氏が「知の共有化」を目指して行った活動の記録として発表されたものです³。GitHub上でEPUB形式で公開されており³、2022年1月22日に参照された記録があります³。残念ながら、提供された情報だけでは具体的な内容は確認できませんでした⁴。しかし、中山氏が2010年に東京外国語大学国際日本研究センターで行った国際シンポジウム「e-Japanologyの構築に向けて」での発表内容⁵を考慮すると、この著作においても電子図書館の概念、その進捗、そして知識インフラの必要性といったテーマが扱われている可能性が高いと考えられます。実際、発表の概要には、「電子図書館構想」、「電子図書館のあゆみ」、「知識インフラの必要性」、「知識インフラの構築に向けて」といった項目が含まれており⁵、「知の共有化」というキーワードとも合致します。このシンポジウムでの発表は、日本の学術デジタルコミュニケーションの現状についても触れており⁵、中山氏が単に技術的な側面だけでなく、学術情報の流通という視点からも電子図書館の未来を捉えていたことが示唆されます。
- **B. 「AIを活用した「知の共有化」システムの方向性—「未来の図書館を作るとは」の実現に向けて—**
この論文は、2017年に『同志社図書館情報学』第27号に掲載されたものです⁶。論文では、AI技術を活用した「知の共有化」システムの方向性が、「未来の図書館を作るとは」という問いに対する答えとして考察されています⁹。国立国会図書館の元館長である長尾真氏が2012年に示した「未来の図書館を作るとは」という概念を踏まえ⁹、第四次産業革命やデジタルトランスフォーメーションといった技術革新の時代において、図書館がどの

ように進化していくべきかが議論されています⁹。特に、各アーカイブ機関がデジタル知識基盤に対応したシステムを構築する際の標準的な調達手順の重要性や⁹、人材育成の観点から「iコンピテンシ・ディクショナリ(iCD)」の活用などが提案されています⁹。論文は、「知の共有化」の定義から始まり⁹、図書館が保有する様々な情報資源をデジタル化し、相互に関連付け、利用者の要求に応じて提示できるような電子図書館の組織化の必要性を強調しています⁹。中山氏は、このようなデジタル知識基盤の構築が、第四次産業革命やデジタル革命の方向性に沿うものであると結論付けています⁹。

III. デジタルアーカイブに関する著作

- **A. 「国立国会図書館におけるデジタルアーカイブ構築 知の共有を目指して」**
この論文は、2011年に『情報管理』第54巻11号に掲載されました¹¹。論文では、国立国会図書館(NDL)におけるデジタルアーカイブ構築の現状と、「知識の共有化」が目指す「新たな知識の創造と還流」に向けた活動の方向性が述べられています¹²。NDLは、納本図書館として、冊子体資料だけでなく、政府系インターネット情報等のデジタルコンテンツを含めて収集・保存する責務を負っており、それらをいつでもどこでも利用できるようにすることが望ましいとされています¹²。NDLは、あらゆる資料や情報を可能な限り収集・保存し、NDLデジタルアーカイブを構築する一方で、全てを収集することは不可能であるため、他の機関と連携して網羅的な知識の蓄積を図り、分散デジタルアーカイブを構築することが提唱されています¹³。それらNDLが収集できていないものも含めて、分散したデジタルアーカイブの情報を一元的にナビゲートし、かつ、意味的に関連付けて知識として利用できるよう、データプロバイダーとしての役割を果たすNDL Searchの構築についても言及されています¹³。このような既存の情報を知識として再利用して新たな知識の創造を可能にする知識インフラの構築が目指されています¹³。中山氏は、当時NDLの電子情報部に所属していました¹⁵。
- **B. 「国のデジタル・アーカイブ・ポータル構築：国立国会図書館「電子図書館中期計画2004」の実施に向けて」**
この論文は、2004年に『情報の科学と技術』54巻9号に掲載されました¹⁶。論文では、国立国会図書館(NDL)が2004年2月に策定した「電子図書館中期計画2004」が紹介され、今後、国のデジタル・アーカイブ・ポータルが有用に活用されるために何が必要か、個々のデジタル・アーカイブを提供する組織や構築のための技術を提供する組織に何が期待されるかについて考察されています¹⁶。ただし、意見にわたる部分は筆者の個人的な見解であると断り書きがされています¹⁶。論文のキーワードとしては、デジタル・アーカイブ・ポータル、情報探索、メタデータ、セマンティックWeb、Webサービスが挙げられています¹⁶。中山氏は、当時国立国会図書館総務部企画・協力課電子情報企画室に所属していました¹⁶。この論文は、比較的早い時期から中山氏が国のデジタルアーカイブの構築という構想に関わっていたことを示しています。

IV. 関連する著作と活動

- **A. 雑誌『ず・ぼん』第17号におけるインタビュー「国立国会図書館のデジタルアーカイブ構想」**

雑誌『ず・ぼん』第17号には、当時国立国会図書館総務部副部長であった中山正樹氏へのインタビューが掲載されています¹⁸。この号の特集テーマは「図書館電子化への課題」であり¹⁹、中山氏のインタビューは、なかなか進まない図書館の電子化の課題について、国立国会図書館のデジタルアーカイブ構想を中心に議論されたものと考えられます²¹。目次情報からも、中山氏が国立国会図書館のデジタルアーカイブ構想について語っていることが確認できます¹⁸。インタビューは沢辺均氏によって行われ²²、「書誌コントロール－国レベル」という観点からも重要な内容を含んでいることが示唆されています²²。

- **B. デジタルアーカイブサロンでの発表(2015年)「知の共有化と利活用」を目指したナショナルアーカイブの構築に向けて」**

2015年12月11日に開催されたデジタルアーカイブサロンにて、中山正樹氏が「知の共有化と利活用」を目指したナショナルアーカイブの構築に向けて」というテーマで発表を行いました²。当時、中山氏はJPEAフェロー、IRI理事、そして元国立国会図書館の専門調査員・電子情報部所属という肩書を持っていました²。この発表資料はIRIアーカイブで公開されています²。IRIアーカイブに掲載されている同タイトルの記事²³は、電子図書館サービス、知識インフラ、東日本大震災アーカイブ(ひなぎく)、そして「ナショナルアーカイブ」の構築の方向性について触れており、文化資源の保有機関が留意すべき点や取り組むべき課題について述べられています²³。中山氏がこの発表を通じて、知識の共有化と利活用を目指した国家レベルでのアーカイブ構築の必要性を提唱したことがわかります。

- **C. JEPA電子図書館委員会委員としての活動**

中山正樹氏は、JEPA(日本電子出版協会)の電子図書館委員会の委員を務めています¹。また、JEPAのフェローでもあります¹。国立国会図書館の電子情報部長という要職を経験した中山氏が、電子出版業界の団体であるJEPAの委員会に所属していることは、彼の知見や経験が業界全体の発展に貢献していることを示唆しています。電子図書館の推進において、図書館側と出版業界側の連携は不可欠であり、中山氏の活動はその橋渡し役として重要な意味を持つと考えられます。

- **D. PORTAからNDL-Searchへの移行に関するインタビュー**

中山正樹氏は、国立国会図書館の総務部副部長であった時期に、PORTAからNDL-Searchへの移行、そして国立国会図書館のデジタルアーカイブ構想についてインタビューを受けています²⁴。NDL-Searchは、PORTAを包含する検索システムとして¹⁸、国立国会図書館が提供するデジタル情報へのアクセスを一元化する重要な役割を担っています。中山氏がこの移行期において、その構想や意義について語ったことは、サービスの発展を理解する上で貴重な情報源となります。2012年の発表資料²⁶においても、中山氏は「知識はわれらを豊かにする」というビジョンに基づき、PORTAがナショナルアーカイブポータルのものであると述べており、NDL-Searchへの発展はその延長線上にあると考えられます。

- **E. 東京外国語大学国際シンポジウムでの発表(2010年)**

2010年12月11日、東京外国語大学国際日本研究センターが主催した国際シンポジウム「

e-Japanologyの構築に向けて」において、中山正樹氏が発表を行いました⁵。発表テーマは、電子図書館の概念と日本の学術デジタルコミュニケーションの現状についてでした⁵。発表では、電子図書館構想の背景、「知識はわれらを豊かにする」という理念、学術デジタルコミュニケーションの現状、国立国会図書館の役割、電子図書館の歩み、知識インフラの必要性、そしてその構築に向けた課題と今後の取り組みなどが議論されました⁵。この発表は、学術分野におけるデジタル化の推進と、知識基盤の整備に対する中山氏の深い関心を示しています。

V. 主要なテーマと概念

- **A. 知の共有化:** 中山氏の著作や発表を通して一貫して見られる主要なテーマは「知の共有化」です²。これは、単に情報をデジタル化して公開するだけでなく、それらを相互に連携させ、誰もがアクセス可能にし、新たな知識の創造や活用を促進するという考え方を包含していると考えられます。
- **B. 国立国会図書館(NDL)の役割:** 国立国会図書館の要職を歴任した中山氏の著作や活動は、NDLが日本のデジタル情報基盤において果たすべき中心的な役割を強調しています¹。これには、デジタルコンテンツの収集・保存、NDL Searchのようなプラットフォームの開発、そして他の機関との連携などが含まれます。
- **C. 未来の図書館とナショナルアーカイブ:** 中山氏の議論は、常に未来を見据えており、AIのような新技術の可能性⁶や、デジタル情報の長期保存とアクセスのための国家戦略の必要性²を探究しています。彼は、従来の図書館モデルを超えた「知識インフラ」の構築を提唱しています。

VI. 結論

中山正樹氏は、電子図書館とデジタルアーカイブの分野において、理論と実践の両面から多岐にわたる貢献をしてきました。国立国会図書館での要職経験に基づいた実践的な視点と、常に新しい技術や概念を取り入れようとする先進的な姿勢は、日本のデジタル情報基盤の発展に大きな影響を与えてきたと言えるでしょう。「知の共有化」という一貫したテーマの下、著作、講演、委員会活動などを通して、その理念を広め、具体的なシステムの構築を推進してきた功績は高く評価されるべきです。提供された情報からは、中山氏が単に過去の業績に留まらず、現在もJEPAやIRIといった場で積極的に活動しており、日本のデジタルアーカイブと電子図書館の未来を形作る上で重要な役割を果たし続けていることが示唆されます。

VII. 主要な表

- 表 1: 中山正樹氏の電子図書館及びデジタルアーカイブに関する主要な著作と発表

タイトル	発表・掲載媒体	年	概要(スニペットに基づく)	主要テーマ
未来の図書館の実現に向けてー「知の共有化」を目指した活動記録ー	GitHub (EPUB)	不明	「知の共有化」を目指した活動記録。東京外国語大学での発表では電子図書館の概念、進捗、知識インフラの必要性を議論 ³ 。	知の共有化、電子図書館構想、知識インフラ
AIを活用した「知の共有化」システムの方向性ー「未来の図書館を作るとは」の実現に向けてー	同志社図書館情報学 第27号	2017年	AI技術を活用した知識共有システムの方向性を考察。第四次産業革命やデジタル変革における図書館の役割 ⁶ 。	知の共有化、AI、未来の図書館、デジタル変革
国立国会図書館におけるデジタルアーカイブ構築 知の共有を目指して	情報管理 Vol.54, No.11	2011年	NDLにおけるデジタルアーカイブ構築の現状と、知識共有を目指した活動の方向性を記述。NDL Searchの役割を強調 ¹¹ 。	デジタルアーカイブ、知識の共有化、国立国会図書館、NDL Search
国のデジタル・アーカイブ・ポータルの構築：国立国会図書館「電子図書館中期計画2004」の実施に向けて	情報の科学と技術 Vol.54, No.9	2004年	NDLの「電子図書館中期計画2004」を紹介し、国のデジタルアーカイブポータルの構築に必要な要素を考察 ¹⁶ 。	デジタルアーカイブポータル、電子図書館中期計画、国立国会図書館
国立国会図書館のデジタルアーカイブ構想(インタビュー)	ず・ぼん 17	不明	NDLのデジタルアーカイブ構想について、図書館電子化の課題という視点から議論 ¹⁸ 。	デジタルアーカイブ、国立国会図書館、図書館電子化
「知の共有化と利	デジタルアーカイ	2015年	知識の共有化と利	ナショナルアーカ

活用」を目指した ナショナルアーカイブの構築に向けて(発表)	ブサロン		活用を目指した国家レベルのアーカイブ構築の必要性を提唱 ² 。	イブ、知の共有化、知識の利活用
電子図書館の概念と日本の学術デジタルコミュニケーションの現状(発表)	東京外国語大学国際シンポジウム「e-Japanologyの構築に向けて」	2010年	電子図書館の概念、進捗、NDLの役割、知識インフラの必要性などを議論 ⁵ 。	電子図書館、学術デジタルコミュニケーション、知識インフラ、国立国会図書館
PORTA→NDL-Search 国立国会図書館のデジタルアーカイブ構想(インタビュー)	不明	不明	PORTAからNDL-Searchへの移行とNDLのデジタルアーカイブ構想について解説 ¹⁸ 。	NDL-Search、PORTA、デジタルアーカイブ、国立国会図書館

● 表 2: 中山正樹氏の委員会活動と所属

所属・委員会	役職	期間	意義
JEPA(日本電子出版協会)電子図書館委員会	委員	不明	電子出版業界における電子図書館の発展に貢献。図書館と出版業界の連携を促進 ¹ 。
JEPA(日本電子出版協会)	フェロー	不明	電子出版分野における高い専門性と貢献が認められている ¹ 。
国立国会図書館	電子情報部長(元)	不明	国立図書館における電子図書館事業を推進 ¹ 。
国立国会図書館	総務部副部長(元)	不明	図書館全体の運営に関与し、デジタルアーカイブ構想を推進 ¹⁸ 。
国立国会図書館	専門調査員(元)	不明	専門的な知識や経験に基づき、図書館の調査

			研究活動に貢献 ² 。
国立国会図書館	総務部 企画・協力課 電子情報企画室(当時)	不明	電子図書館中期計画の策定など、初期のデジタル化戦略に関与 ¹⁶ 。
国立国会図書館	電子情報部(当時)	不明	デジタルアーカイブ構築事業を直接的に担当 ¹² 。
同志社大学大学院総合政策科学研究科	嘱託講師(当時)	不明	研究活動や教育活動を通じて、次世代の研究者育成に貢献 ⁷ 。

引用文献

1. JEP A | 日本電子出版協会 電子図書館委員会, 3月 19, 2025にアクセス、
<https://www.jepa.or.jp/jepa/commitee/toshokan/>
2. 「知の共有化と利活用」を目指したナショナルアーカイブの構築に向けて, 3月 19, 2025にアクセス、https://www.iri-net.org/iri-archieve/national_archives/
3. 国立国会図書館電子図書館サービスの発展 - J-Stage, 3月 19, 2025にアクセス、
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsda/6/s1/6_s36/_article/-char/ja
4. 国立国会図書館電子図書館サービスの発展 - J-Stage, 3月 19, 2025にアクセス、
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsda/6/s1/6_s36/_article/-char/ja/
5. www.tufs.ac.jp, 3月 19, 2025にアクセス、
http://www.tufs.ac.jp/icjs/activityreports/pdf/20101211_04.pdf
6. 中小企業サイバーセキュリティ対策の極意ポータル 参考文献(引用・転載・要約)リスト, 3月 19, 2025にアクセス、
<https://www.cybersecurity.metro.tokyo.lg.jp/security/KnowLedge/562/index.html>
7. AIを活用した「知の共有化」システムの方向性:「未来の図書館を作るとは」の実現に向けて - 同志社大学学術リポジトリ, 3月 19, 2025にアクセス、
<https://doshisha.repo.nii.ac.jp/records/25912>
8. 著者名順リスト <ナ〜ノ - 情報組織化研究グループ, 3月 19, 2025にアクセス、
<https://josoken.digick.jp/bib2010/authornano.html>
9. AIを活用した「知の共有化」システムの方向性, 3月 19, 2025にアクセス、
<https://doshisha.repo.nii.ac.jp/record/25912/files/022000270003.pdf>
10. 参考文献(引用,転載,要約), 3月 19, 2025にアクセス、
<https://cybersecurity.metro.tokyo.lg.jp/security/guidebook/357/index.html>
11. 国立国会図書館のデジタルアーカイブ構築に関する様々な取り組みの現状及び展望(文献紹介), 3月 19, 2025にアクセス、<https://current.ndl.go.jp/car/20074>
12. 国立国会図書館におけるデジタルアーカイブ構築 知の共有を目指して - CiNii Research, 3月 19, 2025にアクセス、<https://cir.nii.ac.jp/crid/1390001205507846656>
13. 国立国会図書館におけるデジタルアーカイブ構築知の共有を目指して - 掌橋科研, 3月

- 19, 2025にアクセス、
https://m.zhangqiaokeyan.com/academic-journal-foreign_information-managem ent_thesis/020413025159.html
14. 中山正樹 - 開放资源服务, 3月 19, 2025にアクセス、
<https://www.istis.sh.cn/metadata/s?q=creator:%22%E4%B8%AD%E5%B1%B1%E6 %AD%A3%E6%A8%B9%22>
15. 国立国会図書館におけるデジタルアーカイブ構築 知の共有を目指して, 3月 19, 2025に アクセス、
https://www.jstage.jst.go.jp/article/johokanri/54/11/54_11_715/_article/-char/ja/
16. 国のデジタル・アーカイブ・ポータル構築: 国立国会図書館「電子 ...」, 3月 19, 2025に アクセス、
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jkg/54/9/54_KJ00000980485/_article/-char/ja/
17. OAIS参照モデルと保存メタデータ - 情報科学技術協会 INFOSTA, 3月 19, 2025にアクセ ス、
<https://www.infosta.or.jp/journal/200409j.html>
18. 【電子書籍版】ず・ぼん17-2 国立国会図書館のデジタルアーカイブ, 3月 19, 2025にアク セス、
<https://www01.hanmoto.com/bd/isbn/9784780850529>
19. 図書館電子化への課題 - ず・ぼん編集委員会 - 9784780801736: 本 - 楽天ブックス, 3月 19, 2025にアクセス、
<https://books.rakuten.co.jp/rb/11476164/>
20. ず・ぼん全文記事 | ポット出版, 3月 19, 2025にアクセス、
<https://www.pot.co.jp/zu-bon>
21. ず・ぼん17 ず・ぼん編集委員会(編) - ポット出版 - 版元ドットコム, 3月 19, 2025にアクセ ス、
<https://www.hanmoto.com/bd/isbn/9784780801736>
22. <博物館、文書館など>: 情報組織化関連記事一覧2010-, 3月 19, 2025にアクセス、
<https://josoken.digick.jp/bib2010/class08.html>
23. IRIアーカイブ | IRI 知的資源イニシアティブ, 3月 19, 2025にアクセス、
<https://www.iri-net.org/category/iri-archievel/>
24. インタビュー 中山正樹 国立国会図書館総務部副部長 PORTA→NDL, 3月 19, 2025に アクセス、
<https://cir.nii.ac.jp/crid/1522262179696272512>
25. インタビュー 中山正樹 国立国会図書館総務部副部長 PORTA→NDL, 3月 19, 2025に アクセス、
<https://ndlsearch.ndl.go.jp/books/R000000004-I023380965>
26. 国立国会図書館サーチのコンセプト・開発経緯と今後の展開, 3月 19, 2025にアクセス、
https://bluemoon55.github.io/History_Archives/2012FY/%E3%80%902012%E5%B9 %B4%E3%80%91%E3%80%90%E5%8F%A3%E9%A0%AD%E7%99%BA%E8%A1% A8%E3%80%9120120324%E6%83%85%E5%A0%B1%E5%AD%A6%E4%BC%9A% E3%83%97%E3%83%AC%E3%82%BC%E3%83%B3%E8%B3%87%E6%96%99%E3 %80%90%E4%B8%89%E7%94%B0%E5%9B%B3%E6%9B%B8%E9%A4%A8%E3% 83%BB%E6%83%85%E5%A0%B1%E5%AD%A6%E4%BC%9A%E6%9C%88%E4%B E%8B%E7%A0%94%E7%A9%B6%E4%BC%9A%E3%80%91.pdf
27. 国立国会図書館におけるデジタル化資料送信サービスと今後の展開 - 神奈川県図書 館協会, 3月 19, 2025にアクセス、
<https://www.kanagawa-la.jp/file/424>
28. 国際シンポジウム「ビッグデータ時代の図書館の挑戦ー研究データの保存と共有」議事 録 - 国立国会図書館, 3月 19, 2025にアクセス、
https://www.ndl.go.jp/jp/collect/tech/bigdata_sympto10.pdf
29. Jepaセミナー20151113 | PPT - SlideShare, 3月 19, 2025にアクセス、
<https://www.slideshare.net/JEPAslide/jepa20151113-55021449>

30. デジタルアーカイブの構築・連携のための ガイドライン - 総務省, 3月 19, 2025にアクセス、https://www.soumu.go.jp/main_content/000153595.pdf
31. 第9回科学技術情報整備審議会議事録 | 国立国会図書館-National Diet ..., 3月 19, 2025にアクセス、<https://www.ndl.go.jp/jp/collect/tech/council/proc09.html>